

令和5年 新年のご挨拶

足腰の強い
「健都ふくしま」を
目指して

福島商工会議所
会頭 渡邊 博美



皆様、明けましておめでとうございます。
新年を迎え年頭のご挨拶を申し上げます。
私は、昨年11月1日に開催されました臨時
議員総会において、引き続き第31期の会頭に
就任いたしました。

任期となる3年間は、当所の基本理念である
“足腰の強い「健都ふくしま」を目指して”の実
現に向けて、全力で取り組んでまいりますので、
引き続き関係各位の深いご理解とご協力を賜
りますようお願い申し上げます。

さて、令和2年から猛威を振るっている新型
コロナウイルスは、より感染・伝播性が高いオ
ミクロン株に変化し、昨年11月から始まった
第8波による感染者数の増加をはじめ季節性
インフルエンザとの同時感染の懸念などは、本
市の地域経済にも大きな影響があり、当所会員
事業所においても業種や規模を問わず、すべて
の企業で多大な影響が出ました。

また、コロナ禍に加え混迷する国際情勢や円
安の影響も重なり、原油や木材、金属、食料品
等の原材料価格が国際的にも高騰して高止ま
りを続け、製造業、運輸業のみならず小売業、
サービス業等あらゆる業種に影響を及ぼしま
した。特に、その影響を受けやすい中小企業・
小規模事業者は光熱費等固定費や原材料高騰
の負担が大きいたとも、価格転嫁ができない
と言う課題もあり、収益の圧迫による経営悪化
が懸念されております。

政府は、オミクロン株の特性を踏まえた療養
環境を支援するための発熱外来自己検査体制
の整備、高齢者施設の医療支援、治療薬の活用
促進などの対応を行うとともに、感染の中心が
飲食の場から高齢者施設、学校、保育所等の施
設や家庭内感染へと変わってきたことを踏ま
え、新たな行動制限を行わず、重症化リスクの
ある高齢者等を守ることに重点を置いて、感染
拡大防止と社会経済活動の両立を図る方針と
しました。

当所では、政府の方針を受け、昨年11月24
日には、福島の夜の賑わいを取り戻し、市内の
飲食業等を支援するために、感染防止対策を徹
底した上で3年ぶりとなる会員交流パーティ
を開催し、地域総合経済団体として社会経済活
動を回していく必要性について先陣を切って
示したところです。

また、コロナ禍から生じる様々な諸問題に対
応するために設置している「新型コロナウイルス
に関する経営相談窓口」では、関係機関と緊
密に連携しながら会員事業所の皆様の気持ち
になった経営支援を引き続き展開してまいり
ました。

まず、コロナ禍においては信頼できる情報を
いち早く届けることが急務であることから、小
規模事業者持続化補助金や雇用調整助成金、事
業再構築補助金、福島県のふくしま小規模企業
者等いきいき支援事業補助金、福島市の新たな
ビジネスモデル創出支援事業などを含めた国・
県・市の支援情報をホームページやLINE、
インスタグラム、FAX、会員巡回などを活用
して積極的に会員事業所へお届けするととも
に、経営指導員による申請書作成支援をはじめ、
様々な相談を通して会員事業者の不安解消に
努めてまいりました。

さらに、福島県中小企業診断協会と連携した

コロナ対策個別相談会を4月から1月までの第2、第4火曜日の月2回実施するとともに、全会員を対象とした新型コロナウイルス感染症に関する影響調査を四半期に一度実施し、都度変化する現場の声を丁寧にくみ取った上で、新型コロナウイルス感染症対策の支援の拡充強化と継続的な支援、物価高騰対策の推進、インボイス制度を含めた消費税の見直し、SDGs推進のための支援の強化などについて、国、県、市に対する要望を積極的に行ってまいりました。

大きく落ち込んだ飲食需要を喚起するため、昨年12月から本年2月までの会議所独自の事業として、夜間営業をしている会員事業所の飲食店の方々を対象に店舗独自のお得なサービスクーポンを設定した「呑んで食うボン」参加店を募集、その内容をまとめた冊子を3万部発行し関係機関へ配布致しました。

また、会員事業所応援事業の一環として、会員企業の経営意欲を高め地域経済の活性化を図ることを目的に「こだわる食のお店推奨キャンペーン」を今年度から新たに実施し、63事業所を推奨、ホームページでPRするとともに、冊子を作成し観光案内所等に配布いたしました。

さらには、季節限定の1,000円超の特別メニューが税込1,000円で食べられることから、市内外の方々に大変好評である「ランチで食うボン」を春と秋の2回実施するなど、販売促進支援事業にも積極的に取り組んだほか、福島県や福島市、関連団体等と連携し、各種需要の喚起策を推進してまいりました。

近年は、度重なる大地震や台風による水害などの自然災害が相次ぐとともに、新型コロナウイルス感染症の拡大により企業の存続が危ぶまれるなど、危機管理の重要性を改めて強く認識さ

せるものとなっております。

当所におきましては、事業継続力強化計画の策定支援や業務災害総合保険、生命共済制度の普及促進を通じて会員事業所の皆様に安心を提供していくとともに、感染症の抑制と経済活動の両立は長丁場になることが予想されることから、引き続き現場主義に徹して会員事業所の皆様のお気持ちに寄り添った経営支援に引き続き取り組んでまいります。

さて、第3期中心市街地活性化基本計画の主要事業に位置付けられ、官民共創による「県都ふくしま」にふさわしい「持続性のある賑わい」拠点づくりを目指し開発される「福島駅東口地区第一種市街地再開発事業」も、昨年11月からは仮囲いが行われ本格的な解体工事が始まりました。福島駅東口の再開発が市民の皆さんの目に見えて変わっていくことで、中心市街地活性化への期待も大きく膨らんでいくはずで、地方都市としては最大規模となる駅前再開発のチャンスを確実に生かし、今後も継続的に中心市街地の賑わいを生み出すような流れを支援してまいりたいと考えております。

広域的な視点に目を転じますと、震災復興支援道路と位置付けられ一昨年開通した東北中央自動車道の相馬・福島・山形間全線開通の効果もあり、昨年4月に大笹生地区に開業した「道の駅ふくしま」の来場者も9月27日には100万人を突破するなど、周辺の幹線国道を含む断面交通量が大幅に増加し、福島、相馬、米沢などの観光交流の拡大と産業振興、物流機能の促進に大きく寄与しております。

さらに、東北中央自動車道が開通したことにより、相馬地方の沿岸部から、本県の医療拠点である福島県立医科大学へ約8割が搬送されました。今後も、命の道として救急医療施設へのより迅速な搬送のために、霊山インターから

福島市内を通り国道115号線に至る新たなルートの整備促進についての要望も継続的に行ってまいります。

スポーツ界では、昨年3月の春場所で新関脇では双葉山以来86年ぶりの歴史的初優勝を果たした若隆景、11月の九州場所で自身最高位である東前頭4枚目に昇進した若元春は史上12組目となる兄弟幕内となりました。幕下の若隆元を含めた本市出身の力士・大波3兄弟の活躍に大きな注目が集まっていることから「大波三兄弟福島後援会」として、3兄弟のさらなる活躍を後押しするために年間を通した応援ツアーを実施するとともに、化粧まわしや季節の果物などの贈呈などを行いながら応援しております。

また、「福島市にサッカースタジアムをつくる会」では、福島ユナイテッドFCがJ2に昇格するための施設整備に関する募金活動を行い、多数の企業と個人の皆様からの暖かいご支援をいただき目標金額の26,100,100円を達成することができ、無事施設整備を完了することが出来ました。

さらに12月には、福島ユナイテッドFC後援会も設立され、スポーツを通じた地域の活性化、関係人口の拡大を図ってまいります。

当所では、福島全体の発展を目的として地域の課題について検討する6つの委員会を議員事業所と女性会・青年部で組織しておりますが、昨年11月から始まった第31期では、現状に対応すべく組織の見直しを図りました。

商工会議所全体の運営を検討する総務委員会では、すべての事業所が求められているデジタル社会実現に向けた取り組みの推進、福島市の今後10年間の方向性をビジョンとして策定した復興創生委員会は、新たに未来創生委員会と名称を変更し、SDGs・カーボンニュート

ラルなどの環境・エネルギー政策の推進、観光全般を検討する観光交流委員会では、駅前に整備されるコンベンション機能への展示会やコンサート、イベント等の誘致活動及び観光DXの推進を新たな事業として追加しました。

また、中小企業振興委員会では、社会情勢等で影響を受けやすい中小企業・小規模事業者に対する支援を推し進めるとともに、中心市街地活性化委員会では、福島駅東口市街地再開発事業を含めた中心市街地全体のまちづくりについて、引き続き推進を図ることと致しました。

当所はこれまでも、「市民・企業・地域社会すべてが元気で健康な、足腰の強い『健都ふくしま』」の実現を基本理念に掲げ、事業に取り組んでまいりました。本年も多様化・複雑化する課題を真正面から捉え、「コロナに負けない福島市」のために不可欠な地域活力の源泉である会員事業所の皆様へのきめ細かな支援をはじめ、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた今後の福島市のまちづくりについて、他地域との連携強化を含めた様々な事業に取り組んでまいります。

結びに、本年が事業所の皆様にとって輝かしい一年でありますとともに、皆様のご健勝とご繁栄をお祈り申し上げ、新年にあたってのご挨拶といたします。